

<令和7年度 経済産業大臣表彰>

メーカーと卸売業のコラボレーションと段積みマテハンを活用したチルド配送効率化



みんなで地球にやさしい物流を

Green Partnership

事業者

- ◆江崎グリコ株式会社
- ◆(株)サンライズジャパンホールディングス
- ◆(株)サンライズグランドフーズ
- ◆エージーエス(株) ◆鴻池運輸(株)
- ◆岐阜プラスチック工業(株)

事業概要

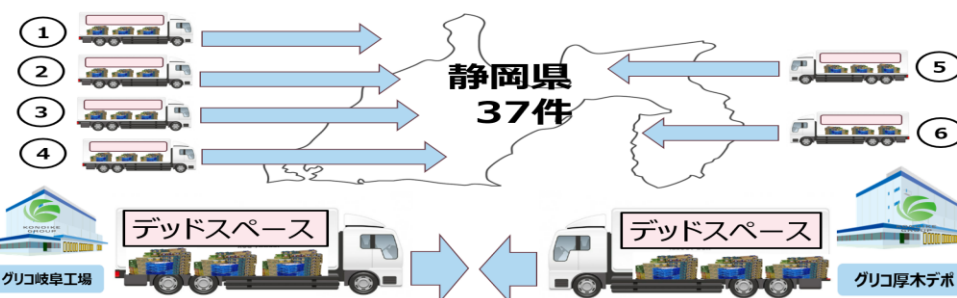
ドライバー不足等の社会課題、温室効果ガス削減等の地球環境課題の解決に寄与する取組を目的として、江崎グリコのお得意先である卸売業(株)サンライズグランドフーズと、段積みカーゴを活用した新発想のチルド物流シェアリングを静岡県で展開することで極めて高い成果を上げることができた。

実施前

- ・江崎グリコの静岡県チルド夜間配送の取引先計37件は、岐阜工場と厚木デポの2拠点から365日配送を実施。
- ・チルド日配は、受注締時刻・完納時刻などの厳しい制約があり約束厳守のために、直送トラックが多く発生している。
- ・コンテナ内は平置きで上部に空間が生じ、積載率が低い。
- ・トラック台数が増加することでCO2排出量やドライバーの労働時間も増加、全体的に非効率であった。

概要図

直送トラック 1日6台 年間2,190台



実施後

- ・江崎グリコのお得意先である、卸売業(株)サンライズグランドフーズに納品すると同時に、現地の物流網にて江崎グリコの他お得意先30件を一緒に混載して共同配送を実施した。
- ・コンテナ内部の空間を埋めるため、岐阜プラスチック工業の段積(リスモーターカーゴLライト)大小の2種類を準備した。
- ・商品はパケット型(得意先単位)でピッキングして段積みカーゴで輸送するため、到着後はピッキング作業なしで共同配送が可能となった。

直送トラック便 1日2台 年間 730台



特徴

- ◆江崎グリコのチルド商品を卸売業のサンライズグランドフーズの物流網を活用し、共同配送を実施した。
- ◆段積みカーゴの活用で、無駄な空間を無くした効率的な輸送ができるようになった。
- ◆パケット型(得意先単位)で輸送するので、共同配送拠点でのピッキング作業は不要。
- ◆得意先ごとにピッキング完了して輸送するのでトレーサビリティ管理も阻害されない。

効果

- ◆CO₂削減量: 284tCO₂/年(32%)削減
 - ◆直送トラック削減: 1460台/年(66%)削減
 - ◆労働時間: 13,140h/年(60%)削減
 - ◆積載率: 江崎G 44% → 54% / 年(10%)向上(重量比)
 - ◆積載率: サンライズ53% → 70% / 年(17%)向上(重量比)
- ※CO₂削減率・積載率(車格変更と共同配送分を含む比率)



事業者

(株)セブン-イレブン・ジャパン
日本ロジスティクス協同組合
(加盟：27社)

事業概要


フランチャイズチェーン本部として、物流パートナー各社、加盟店と連携し、納品便の集約や曜日別の納品時間変更による積載率の向上を図るとともに、物流GXにも対応し、持続可能なサプライチェーン構築を図る。

① 夜間納品便の集約 (日配品)

時間	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5
変更前										
		積載率約34%								

変更後



積載率の低い
2つの便を
集約




積載率約62%

25年3月現在
9,500店舗実施中
(24年度総店舗数：21,535店)

② 曜日別納品時間変更 (常温)

月	火	水	木	金	土	日
						
		6店/台		6店/台		
		積載率約90%		積載率約60%		

曜日特性に
合わせた
コース変更



8店/台

積載率約90%

25年1月現在
11,300店舗実施中
(24年度総店舗数：21,535店)

③ 物流GXの対応



EVトラック



FCトラック



B5燃料
B100燃料



屋根上
太陽光



太陽光
搭載車両

物流パートナーである組合とともに物流効率化、GXの対応を進めている

CO2削減量 5,725t-CO₂/年 (6%) 削減



事業者

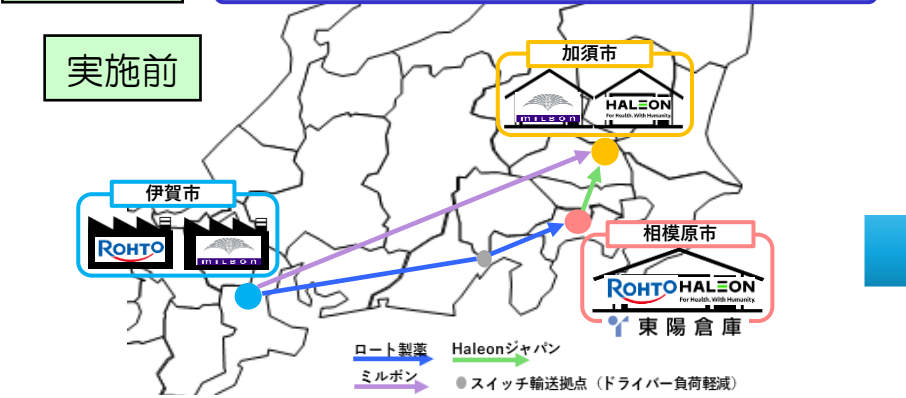
- ・ロート製薬株式会社
- ・株式会社ミルボン
- ・Haleonジャパン株式会社
- ・東陽倉庫株式会社

事業概要

従来より各社は効率的な輸送に取り組んできたが、より一層の効率化に向けて、配送ルートの共通性を活かして、製造拠点と倉庫間をリレー方式で繋ぐ輸送方法を検討。パレットサイズ、輸送量、製品安全の問題など、各社の様々な制約条件をクリアするため、共同輸送に適した製品選定、積載技術の検証、品質テストを実施。積載効率の最大化、ドライバースイッチ等、長距離輸送でも過負荷なく運行できる体制構築を実現した。本取り組みによる輸送効率の最大化は環境負荷低減、ドライバーの働き方改革など、持続可能なサプライチェーンに貢献する。

概要図

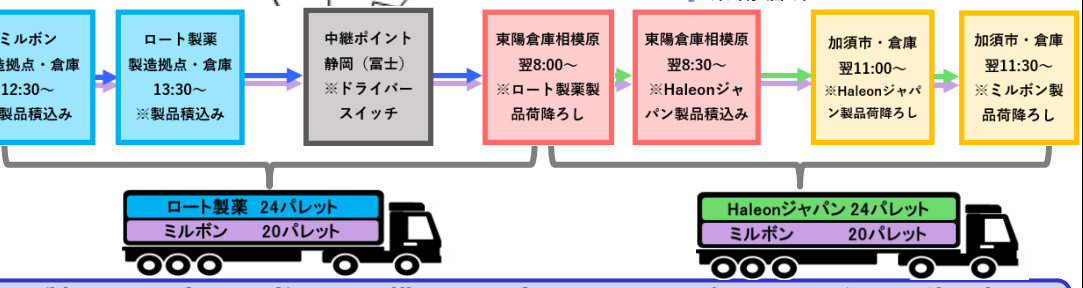
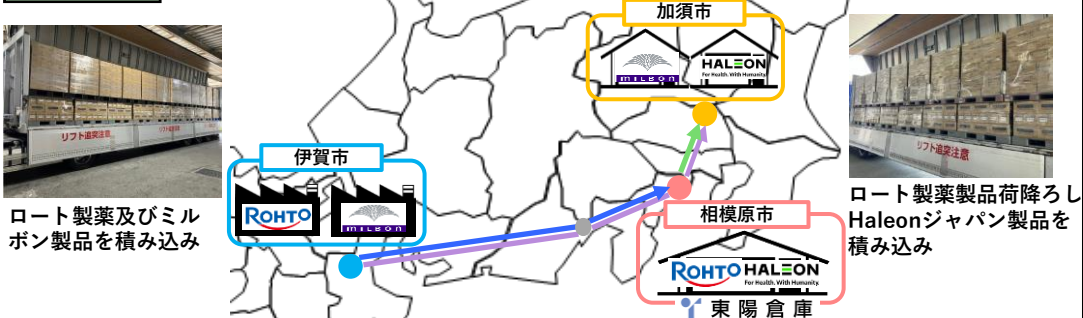
3社は独立した製品輸送を実施しており課題が発生



事業者	課題
ロート製薬	製品規格サイズによっては平積みで輸送する必要もでてくるため、輸送時の余剰空間が発生し積載率が課題
ミルボン	単独での積載効率化の限界や過剰供給リスクなどが課題
Haleonジャパン	製品規格サイズにより平積みで輸送するため、輸送時の余剰空間が発生し積載率が課題
東陽倉庫	荷主それぞれのオーダーにより都度、輸送手配を実施。年々、原価高騰やドライバー不足（特に長距離）が顕在化しており輸送効率を高めた運用が課題

※ロート製薬／Haleonジャパン（製品製造委託先）の神奈川県相模原市の委託倉庫事業者は東陽倉庫相模原営業所
※ミルボン／Haleonジャパンの埼玉県加須市委託物流事業者（2拠点）は同一物流事業者

実施後



3社製造拠点～倉庫間（伊賀→相模原→加須）を同一車両で輸送し、全行程で積載率最大化を実現。また、環境負荷・労務負荷軽減に貢献

特徴

- ◆ 配送ルートに共通性のあった3社にて製品を混載する「リレー型コネクト共同輸送」では全行程で積載率の最大化運行を実現
 - ◆ ロングトレーラーの起用により1運行あたりの積載量（パレット枚数）を最大化
 - ◆ 中継ポイント導入によるドライバーの労務時間削減及び持続可能性を追求
- ⇒トラック台数大幅削減、環境負荷の軽減、労務負荷軽減、省人化の実現

効果

- ◆ CO₂削減量：13.3t-CO₂/年（32.8%）削減
- ◆ 積載率：13.7%向上（平均66.5%→75.6%）
- ◆ 輸送効率：トラック102台/年（67.1%）削減
総合輸送距離15,428km/年（38.6%）削減
- ◆ 上記輸送効率化において18.4%コスト削減及び1運行単価19.2%改善。相互扶助並びにドライバーの雇用環境改善に寄与



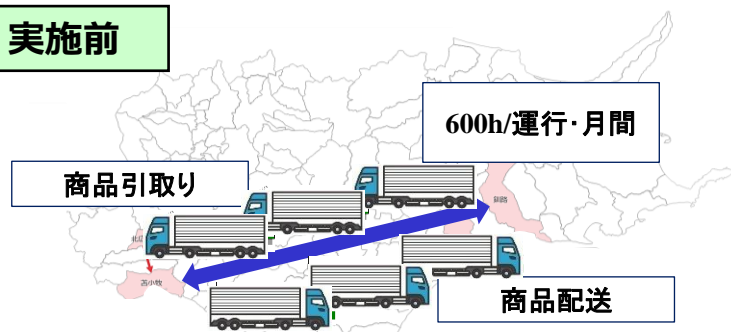
事業者

- イオン北海道株式会社
- 栗林商船株式会社

事業概要

物流の2024年問題によるドライバー労働時間削減に伴う配送距離の減少、若年層のドライバー成り手不足、高齢化によるドライバー不足による配送力低下が既に始まっており、特に遠隔地への配送が大きな影響を受けることが予測されたため、配送力確保に向け、トラック配送の一部をRORO船を活用したモーダルシフトに変更。
トラック運行距離の削減・勤務時間の短縮による人時削減及びCO2排出量の削減を実現。

実施前



実施後



概要図



トラック配送とRORO船配送によるハイブリット配送の実現

※トラック配送は継続、トラック配送していた一部商品をモーダルシフト化することで運行時間削減、CO2排出量削減を実現

特徴

- ◆店舗への商品配送を、トラック配送のみからRORO船を併用したモーダルシフトを実施
- ◆センター仕分け作業、店舗荷受け・店出しオペレーションの変更によりRORO船就航効果率は維持し、トラックドライバー人時削減とCO2排出量の削減を実現
- ◆店舗への配送はトラックという従来の先入観と商慣習の打破を実現
- ◆物流効率化法に基づく総合効率化計画認定事業

効果

- ◆CO2削減量：73t-CO2／年（約24%）削減
- ◆ドライバー人時削減：約36%削減
- ◆BCP対応効果：配送収束までの所要日数
想定7日⇒4日 完了予定より3日削減



事業者

パナソニック・キスケルトデザイン株式会社、パナソニック住宅設備株式会社、パナソニック・ハレショナリケレイン株式会社、日本通運株式会社、日本貨物鉄道株式会社

事業概要

パナソニックグループでは、積載率の向上、出荷計画の見直し、車両の適正化など、様々な視点からの物流革新を進めるとともに、『Panasonic GREEN IMPACT』を掲げて環境負荷低減に取り組んでいることから、長尺品であるテクノビームの輸送において、環境負荷低減も同時に行えるモーダルシフトを実施した

概要図

【実施前】

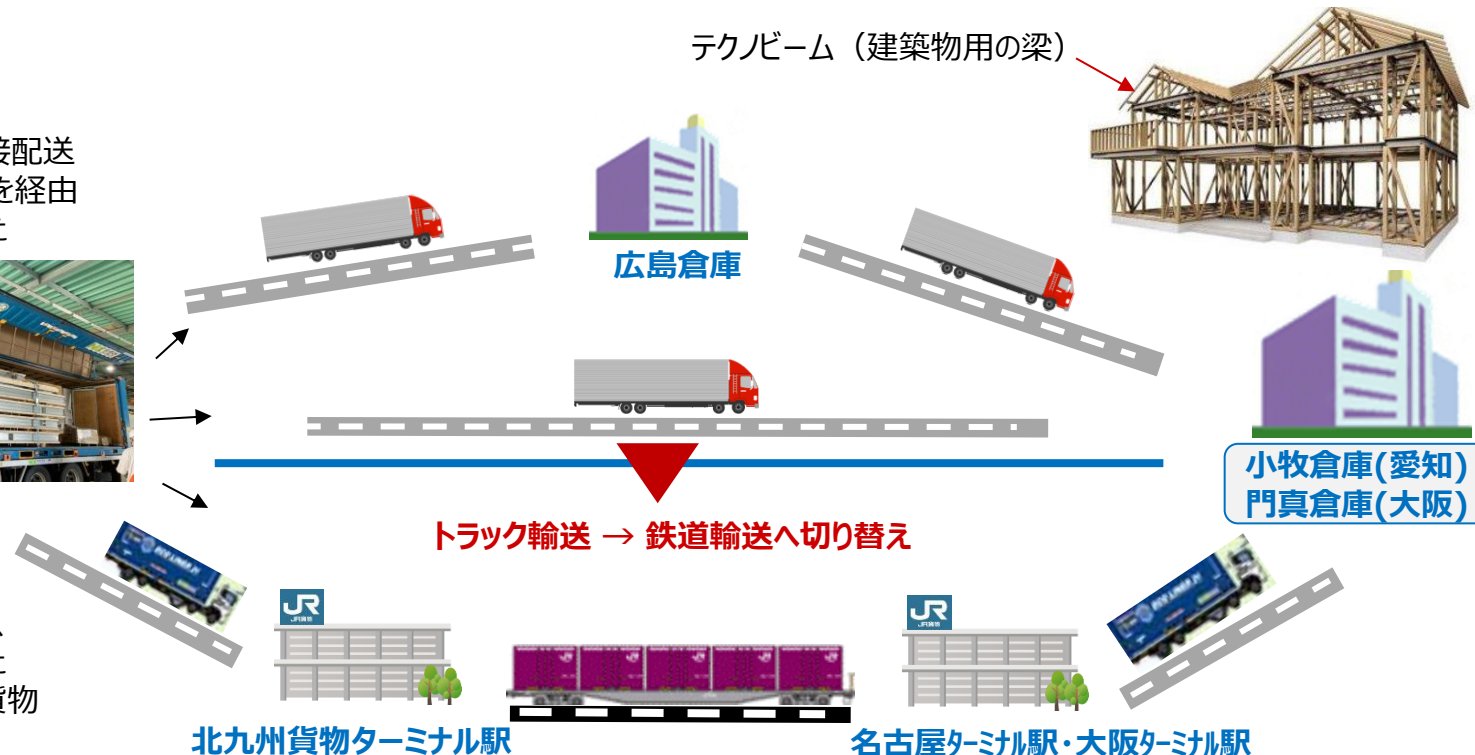
北九州工場から配送拠点に全量、直接配送拠点までトラック輸送若しくは、広島倉庫を経由して配送拠点までトラック輸送を行っていた



出発地

【実施後】

貨物鉄道に合わせた生産計画をたてて、北九州工場から空コンテナで回送していた31ftコンテナを活用して、配送拠点まで貨物鉄道輸送を行った



特徴

- ◆ 鉄道輸送のリードタイムをもとに、生産計画を変更し遅延等に対応できる体制整備
- ◆ 中継拠点を通らず配送拠点まで直接輸送を行うことによる物流効率化
- ◆ テクノビーム専用の角当てを導入し、高所作業の廃止及び、鉄道用の固縛を実施
- ◆ テクノビームの積込のマニュアル化により、どのドライバーでも集貨できる体制構築
- ◆ 空で回送していた31ftコンテナを積極的に活用

効果

- ◆ CO₂削減量: ▲276.7t-CO₂/年 (▲86.0%)
- ◆ トラックでの輸送距離削減: ▲148,428km/年 (▲94.9%削減)
- ◆ トラックドライバーの労働時間削減: ▲2,552時間/年 (▲90.3%削減)
- ◆ 空回送31ftコンテナ活用 84 コンテナ/年